

国民生活・経済・社会保障に関する調査会(2012 年 4 月 18 日)

国民生活・経済・社会保障に関する調査 「持続可能な経済社会と社会保障の在り方」について

○会長(鴻池祥肇君)

ただいまから国民生活・経済・社会保障に関する調査会を開会いたします。国民生活・経済・社会保障に関する調査を議題とし、「持続可能な経済社会と社会保障の在り方」について委員間の意見交換を行います。

本調査会は、これまで「持続可能な経済社会と社会保障の在り方」のテーマの下、経済を中心に精力的に調査を進めてまいりました。



本日は、中間報告書を取りまとめるに当たり、これまでの調査を踏まえ、委員各位から御意見をお述べいただきたいと存じます。

○吉川沙織君

民主党の吉川沙織でございます。



調査項目といたしまして、「持続可能な経済社会と社会保障の在り方」についてということでございますので、私自身の経験談も踏まえながら意見を述べさせていただきますと思っています。

今、経済成長の大事なお話ございました。私自身、民主党の中で一番若い参議院議員として議席をいただいております。前職は会社員でございました。

就職活動をいたしましたのが 1998 年、平成 10 年のことでございます。その前年に就職協定が廃止になり、そしてまた、絶対に当時潰れないと言われておりました北海道拓殖銀行や山一証券が倒れていき、そういう中で就職活動をいたしました。



物心付いてから、バブルの世代も余り実感をして経験をしたことはありません。社会に出てまいりましたのも、実際もう右肩下がりのこういう経済状況に入った中で社会に出て、会社員として仕事をさせていただきました。

そんな中で、綻びが見え始めた社会保障制度、そしてなかなか右肩上がりに向上かない日本の経済、これを実感しながら、今は政治の世界で仕事をさせていただいております。

私自身の実体験もございますことから、たまたま就職活動をするときに、その学生や生徒の未来がそのときの日本社会や経済の状況で一生が左右されることがあってはならないという思いで、一貫してこの間、若年者雇用の問題に取り組んでまいりました。

2008年のリーマン・ブラザーズが破綻した後は、内定取消しの規制を強化するための法案を出させていたという活動もしてまいりましたが、今この調査会でもテーマになっております社会保障という観点でいえば、一つ、年金制度に対する不信感というものが非常に大きいものがあると思っています。

これは、昨年の予算委員会でも取り上げましたけれども、社会保障制度でどこに一番不信感があるかというアンケートをとある新聞社が取っています。やはり、その最たるものに挙げられましたのが年金制度というふうに答えられています。

ただ一方で、年金制度に対する正しい理解というものも進んでいないということはこのアンケート結果からも明らかになっています。



具体的に申すれば、将来どのくらい公的年金をもらえるか知らないと答えている方が半数、正確に知っていると答えた方は10%にとどまっています。

若い世代についても同じで、もちろん政治や社会保障全般に対する不信感もあるんでしょうけれども、国民年金の若年層、特に20代における納付率は今深刻なほど低くなっています。

ですから、社会保障と税の一体改革もちろん大事ですけども、年金制度に対する正しい理解を、例えば教育現場でもっとその重要性を伝えていく必要性、それから若い世代に対する施策をもっと強力にその現場を分かっている人が打ち出すことによって、社会保障制度の必要性、それから信頼性というものを取り戻していく必要があると思っています。



ありがとうございました。

誤解を恐れずに申し上げますならば、どちらかといえば、本当は全世代に向けて政策を打ち出さなければいけないんですが、どうしても偏りが生じている。

これを是正していくのも大きな私たちに課せられた役割だと思っていますので、この調査会でそういったことも皆さんの共通認識として少しでも頭の片隅に置いていただければということを申し上げまして、私の意見とさせていただきます。